



# 酪農試験場だより 号 外

## ★粗飼料分析受付回数を増加しました★

今年の夏の天候は不順続きでした。さらに台風4号に伴う集中豪雨によるトウモロコシの倒伏、収穫の遅れ、サイロ冠水など飼料生産にとっては最悪の年となりましたので、次に記すとおり今年のサイレージは例年のものとは成分が異なっていることが考えられます。そこで、酪農試験場では下記のとおり分析日を増加しますので、飼料分析を行って適正な飼料給与を行いましょう。

### (1) サイロが冠水・浸水した場合

刈取り時の水分が高い場合、サイロから排汁が出ますが、刈取り時水分によって、乾物が減少する様子を表1に示しました。今回は冠水によってこれ以上に水分が高まり、水が退いたことによって乾物が減少していることが予想されます。

表1 水分別乾物の損失(名久井1978)  
(単位：%)

水分	乾物の回収率	乾物の損失
70	94.8	5.2
75	94.2	5.8
80	91.3	8.7

さらに、冠水・浸水により発酵が正常に進まず、雑菌による腐敗が発生していることも懸念されます。

### (2) 刈り遅れにより低水分原料をサイロに詰めした場合

収穫適期を逸してしまうと、表2のとおり乾物収量は増加しますが、消化が悪くなりTDN収量は低下してしまいます。また、低水分サイレージは、発酵が進まないために乳酸の生成が悪く、pHが低下しないために開封後の2次発酵が起こりやすくなる特性があります。

表2 刈り取り時期の熟度と収量(櫛引 1979)

熟期	10aあたり収量(Kg)			乾物率(%)
	生重	乾物重	TDN	
乳熟期	4,500	665	385	15.0
糊熟期	4,300	800	600	19.0
黄熟期	4,000	1,150	950	29.0
完熟期	2,600	1,160	900	45.0

これらのことより、冠水・浸水や極度に刈り遅れたサイレージは発酵が順調に進

まず、腐敗・2次発酵しやすいことを忘れないでください。また、このようなサイレージを多量に給与した場合、第一胃内で異常発酵し鼓脹症を引き起こしたり、下痢や軟便が発生します。このような場合には、サイレージの給与量を減らし（場合によっては給与中止）、他の粗飼料で乾物とエネルギーを充足させて下さい。

## 粗飼料分析受付 (◎受付日)

1998年		12月				
Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
		1	◎2	3	4	5
6	7	8	◎9	10	11	12
13	◎14	15	◎16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		
1999年		1月				
Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
					1	2
3	4	5	◎6	7	8	9
10	11	12	◎13	14	15	16
17	◎18	19	◎20	21	22	23
24	25	26	◎27	28	29	30
31						
1999年		2月				
Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
	◎1	2	◎3	4	5	6
7	8	9	◎10	11	12	13
14	15	16	◎17	18	19	20
21	22	23	◎24	25	26	27
28						
1999年		3月				
Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
	1	2	◎3	4	5	6
7	8	9	◎10	11	12	13
14	15	16	◎17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

(星一好 阿久津充 濱田勉)

酪農試験場だより 号外 栃木県酪農試験場

〒329-2747 西那須野町千本松298

電話0287-36-0280 平成10年11月24日